2019 年（令和元年）7 月に米国で公表された、我が国で未承認の遺伝子組換え小麦についての Q&A

令和元年 8 月 13 日一部改定

問１
　米国ワシントン州において未承認の遺伝子組換え小麦が発見されたことに関する米国農務省の発表はどのような内容ですか？

（答）

7 月 12 日（米国時間）に米国農務省が行った公表の概要は以下のとおりです。（6 月 7 日に公表された内容の更新）。

○ 6 月 7 日、ワシントン州の 1 農場の休耕地で未承認のグリホサート耐性遺伝子組換え小麦を発見したことを公表。
○ 7 月 12 日、その小麦は、モンサント社が開発したグリホサート耐性小麦（MON71300 及び MON71800）であることを公表。
○ 食品医薬品局（FDA）は、少量の MON71300 や MON71800 が食品流通に存在したとしても安全性に懸念はないと考えるとしている。
○ 米国において、これまで遺伝子組換え小麦は、商業栽培されていないため、販売されておらず、商業流通は確認されていない。

（米国農務省 URL）
https://www.aphis.usda.gov/aphis/newsroom/stakeholder-info/sa_by_date/2019/sa-07/ge-wheat

問２
　本事案に対してどのように対応するのですか？

（答）

米国農務省は、遺伝子組換え小麦の市場流通は確認されていないとしていますが、念のため、厚生労働省は 8 月 13 日、遺伝子組換え小麦（MON71300）の検査方法を検疫所等に通知し、輸入時のモニタリング検査を開始しました。

なお、MON71800 については、2013 年より輸入時のモニタリング検査を開始しましたが、現在までに遺伝子組換え小麦の検出はありません。

厚生労働省としては、食の安全を確保するため、引き続き、農林水産省と政府内で連携して対応してまいります。

（参考）農林水産省ホームページ
http://www.maff.go.jp/j/seisan/boueki/nyusatu/n_announce/190717qa.pdf